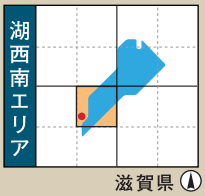
史跡
国指定

みなみ　し　　が　ちょう　はい　じ　あと
南滋賀町廃寺跡

大津市南志賀一丁目　昭和32年10月11日指定



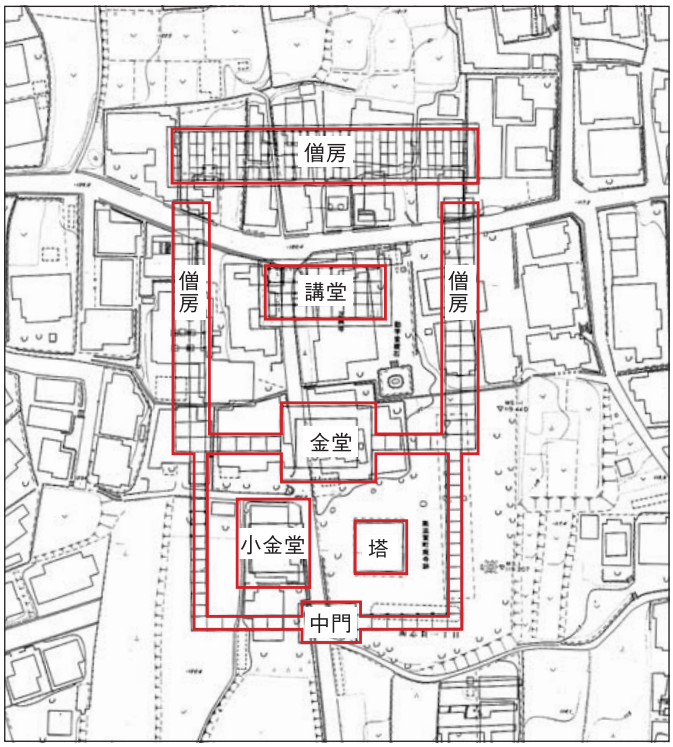
大津宮の中心から北へ約1㎞離れた丘陵上にある寺院が、南滋賀町廃寺です。大津京を取り巻くように建立された白鳳期の寺院の一つで、サソリ文と呼ばれる特異な瓦が甍（いらか：屋根の大棟）を飾っていました。

当時のできごと	
645年	中大兄皇子ら蘇我入鹿を暗殺する
663年	白村江の戦いで日本大敗
672年	壬申の乱

概説

南滋賀町廃寺は、昭和初期に行われた、大津京の所在を探るための発掘調査以来、多くの調査が行われ、その全容が明らかとなってきました。伽藍はほぼ3町（約310m）四方の規模で、方位を大津宮と同じにしており、白鳳期に創建されて平安時代末まで存続していたようです。いわゆる川原寺式の伽藍配置を採用し、中門を入って東に塔、西に小金堂（西金堂）、その背後に金堂、講堂を配します。中門から東西に延びる回廊は塔、小金堂を囲んで金堂に取り付き、講堂を囲んで僧坊を三方に配します。主要な建物は瓦積み基壇の上に建てられています。

また、伽藍の西の斜面に広がる榿木原（はんのきはら）遺跡の調査では、この寺院の屋根を飾る瓦を焼いた窯の跡が多数見つかっており、寺院が公的な力の元で造営、維持されていた様子がうかがわれます。



南滋賀町廃寺跡平面図

南滋賀町廃寺の性格

南滋賀町廃寺については、天智天皇の発願により建立された「崇福寺」とする考え方、桓武天皇の勅願による「梵釈寺」とする考え方など様々な説が出されていますが、今のところいずれに当てはまるかの確証は得られていません。

いずれにしても、その立地・時代性から、大津宮と密接な関係のあった寺院であることは間違いないようです。



回廊の礎石

南滋賀町廃寺の瓦

この寺院の創建期に用いられた瓦には二つの系統があります。一つは「川原寺式」と呼ばれる、飛鳥の川原寺で用いられた瓦で、伽藍の形式と併せ、両寺院の関係が注目されます。もう一つの系統は、蓮華文方形軒瓦（れんげもんほうけいのきがわら）と呼ばれる、大津市北部の白鳳寺院に特有の瓦です。通常の瓦は円形で、蓮の花を真上から見たモチーフとなっていますが、蓮華文方形軒瓦は、四角で、蓮の花を縦に切った断面をモチーフとし、その模様からサソリ文瓦とも呼ばれています。



塔芯礎



南滋賀町廃寺跡　遠景

周辺の遺跡

南滋賀町廃寺跡の周辺には、特色ある性格の遺跡が立地しています。まず、寺院の東側の丘陵裾部には、官衙的な色彩の強い遺物が多数出土する**南滋賀遺跡**があり、大津宮や、寺院の運営に関与する役所的な施設があった可能性があります。寺院の北西丘陵上には、渡来人系の古墳の特色のある石室や遺物が知られている、**福王子古墳群**があります。この周辺は渡来人系氏族大伴氏の本拠であったとされる場所であり、大津宮への遷都も、これら渡来人の力を借りるためという考えもあります。その他、瓦生産工房の**榿木原遺跡**、集落や祭祀の遺構が見つかった**大伴遺跡**などがあります。



サソリ文瓦

関連する文化財

崇福寺跡（大津市）	学習シートNo.005
穴太廃寺跡（大津市）	学習シートNo.016
近江大津宮錦織遺跡（大津市）	学習シートNo.014

もっと深く知りたい

近江神宮時計博物館	☎077-522-3725	大津市神宮町1-1
大津市埋蔵文化財調査センター	☎077-527-1170	大津市滋賀里1-17-23
滋賀県埋蔵文化財センター	☎077-548-9681	大津市瀬田南大萱町1732-2
大津市歴史博物館	☎077-521-2100	大津市御陵町2-2
大津市教育委員会	☎077-528-2638	大津市御陵町3-1

南滋賀町廃寺跡へのアクセス　JR湖西線　西大津駅下車　京阪電鉄石坂線　南滋賀駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔滋賀縣史蹟調査報告1～12〕滋賀縣保勝會　〔近江の遺跡〕(財)滋賀県文化財保護協会　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　　平成16年3月